

「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H24年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度の 現況値	H25年度の 目標値	H24年度の 現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
1 義務教育課	H24年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「将来の夢や目標を持っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 86.7 %	小 90 %	小 88.9 %	66.7	目標値には近づきつつあるが、今後予定されている全国調査の結果説明会や学力向上の集い等の機会を用いて、啓発を進めるとともに、やまなしの教育振興プランにおけるキャリア教育との関連も視野に入れた取組を推進する。
			中 73.0 %	中 80 %	中 77.4 %	62.9	
3 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「将来の夢や目標を持っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	高 70.4 %	高 80 %	高 %		
4 高校教育課	H25年 3月	・就業体験を実施している高校の割合	高 65.6 %	高 80 %	高 76.7 %	77.1	30校中23校が実施。今後も教育事務所、ハローワーク等の関係機関と連携しながら支援していく。
5 高校教育課	H25年 3月	・企業等で実習体験をしている生徒の数	高 150 人	高 300 人	高 683 人	355.3	国（地域産業担い手育成事業）や県単（地域連携ものづくり人材育成事業）事業の取組により参加生徒数が増加した。今後は新たな県単（地域と連携した工業系技術力向上対策事業）事業により、連携企業数を増やし、参加生徒数の増加を図る。
6 高校教育課	H25年 3月	・企業等の研修に参加した教員の数	高 162 人	高 180	高 130 人	-177.8	H23年度から企業実習参加生徒が大幅に増加し、その指導にあたるために、教員研修の時間を確保することが困難となり、H19年度に比べ参加教員数が減少した。H24年度は、実施時期の見直しにより、参加教員数が若干増加した。
7 義務教育課	H24年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「国語の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 81.8 %	小 90 %	小 87 %	63.4	目標値には近づきつつあるが、今後予定されている全国調査の結果説明会や学力向上の集い等の機会を用いて、啓発を進めるとともに、授業改善プラン等を使って、基礎的基本的な知識の習得や活用型の学習の重要性について、周知徹底を図る。
			中 72.1 %	中 80 %	中 78.8 %	84.8	
9 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「国語の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 57.7 %	高 70 %	高 %		
10 義務教育課	H24 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「算数（数学）の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 79.2 %	小 90 %	小 82.3 %	28.7	目標値を達成するため、今後予定されている全国調査の結果説明会や学力向上の集い等の機会を用いて、啓発を進めるとともに、授業改善プラン等を使って、基礎的基本的な知識の習得や活用型の学習の重要性について、周知徹底を図る。
			中 62.1 %	中 70 %	中 66.4 %	54.4	
12 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「数学の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 51.3 %	高 70 %	高 %		
13 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「英語の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 45.5 %	高 60 %	高 %		
14 義務教育課	H25年10月	・学習指導要領に示された目標に沿った指導と評価を実践するために、各教科毎に学力を観点別にとらえた評価規準を整備している学校の割合	小 91.2 %	100 %	小 100 %	100.0	文部科学省による調査によって、県内すべての小・中学校において、観点別評価規準の整備が整ったことが確認できた。
			中 89.6 %		中 100 %	100.0	
16 高校教育課	H25年 4月		高 92.5 %		高 99 %	86.7	全ての学校で各教科について整備しているが、選択科目等で未実施のものについて準備中のものもある。

「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H24年度 現況値の公表時期	指 標 の 概 要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H24年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
17 義務教育課	H24 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「学校の授業時間以外に普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか」の設問に「全くしていない」と答えた児童生徒の割合	小 3.6 % 中 9.3 %	小 2 % 中 5 %	小 3 % 中 6.5 %	37.5 65.1	今後予定されている全国調査の結果説明会や学力向上の集い等の機会を用いて、現状を正しく理解してもらうとともに、授業改善プラン等を使って、家庭での学習習慣や地域における学習について、周知徹底を図る。
18							
19 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の授業以外に、1日だいたいどのくらい勉強しますか」の設問に「全く、または、ほとんどしない」と答えた生徒の割合	高 28.2 %	高 15 %	高 %		
20 義務教育課	H24年度調査項目から削除	・「全国学力・学習状況調査」における「総合的な学習の時間の勉強は好きですか」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合	小 82.4 % 中 68.5 %	小 90 % 中 80 %	小 % 中 %		目標値に近づいているが、未実施校については今後の働きかけを強めていく。
21							
22 高校教育課	H25年 6月	・教員や生徒により小中学生への授業等を実施している高校の割合	高 62.1 %	高 80 %	高 73 %	60.9	
23 義務教育課	H24年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「学校のきまりを守っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 88.8 % 中 87.1 %	小 92.9 % 中 93.7 %	小 341.7 % 中 227.6 %		小・中ともに、当初設定した目標値は達成しているが、学力向上の集い等の機会を通して、学校の今後も決まりをまもることの重要性や人間形成にもつながる要素であることを周知していく。
24				90 %			
25 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の規則を守っている」の設問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合	高 85.2 %	高 %	高 %		
26 義務教育課	H25年 4月	・道徳の授業を地域住民や保護者に公開している学校の割合	小 34.8 % 中 27.1 %	70 %	小 95.1 % 中 84 %	171.3 132.6	豊かな心をはぐくむ「やまなし」道徳教育推進事業を中心に。授業公開や地域連携の重要性について提案していく。
27							
28 義務教育課	H24年度調査項目から削除	・「全国学力・学習状況調査」における「人が困っているときは、進んで助けている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 82.4 % 中 77.6 %	90 %	小 % 中 %		
29							
30 義務教育課	H21年度調査項目から削除	・「全国学力・学習状況調査」における「海、山、湖、川などで遊んだ経験がある」の設問に「何度もあった」「時々あった」と回答した児童の割合（小学校）	小 84.8 %	90 %	小 %		
31		・「全国学力・学習状況調査」における「海、山、湖、川などに行って、自然の素晴らしさを感じた経験がある」の設問に「何度もあった」「時々あった」と回答した生徒の割合（中学校）	中 86.4 %		中 %		
32 高校教育課	H24年12月	・文化部の活動を充実させるために行われている高校芸術文化祭への参加者数	18,416 人	20,000 人	23,994 人	352.1	参加部門数が年々増加しており、目標値が達成できた。今後も、この参加者数を維持するよう取り組んでいく。

「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H24年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度の 現況値	H25年度の 目標値	H24年度の 現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
33 義務教育課	H25年12月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「いじめの認知件数」	小 251 件	小 200 件	小 1824 件	-3084.3	早期に児童生徒との教育相談や、いじめが起きにくい学校づくり、学年づくりを行う方策を考えていくよう指導する。すべての児童生徒を対象に「予断をもたない」という姿勢で観察し、積極的にいじめを認知するよう指導するとともに、いじめを認知した際の、組織的な早期対応・早期解決を目指すよう指導していく。
34	中 319 件		中 230 件	中 1540 件	-1371.9		
35 高校教育課	H25年12月		高 169 件	高 100 件	高 141 件	40.6	
36 義務教育課	H25年12月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「不登校児童生徒」の人数	小 188 人	小 160 人	小 123 人	232.1	常に危機意識を持つとともに、未然防止・早期対応が最大の対策であることをこれまで以上に啓発していく。また、中1ギャップの軽減のために、小・中連携をさらに推進するとともに、体験学習や家庭教育の充実を図る。さらに、「居場所づくり」や「魅力ある学校づくり」、「教育相談体制の充実」等、指導体制づくりや環境づくりに重点的に取り組んでいく。
37	中 995 人		中 700 人	中 652 人	116.3		
38 高校教育課	H25年12月		高 299 人	高 280 人	高 191 人	568.4	
39 義務教育課	H25年12月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「暴力行為」の件数	小 6 件	小 3 件	小 35 件	-966.7	関係機関との連携を強化するとともに、毅然とした粘り強い対応を心がけるよう周知する。また、暴力行為の予防という視点から人間関係づくりや言語活動の充実、人権尊重・正義感や命の大切さなどを取り上げた教育活動、体験活動やボランティア活動、地域と連携した取組など規範意識の育成等に重点を置き指導することで、暴力行為の起こらない学校・学級づくりを推進していく。
40	中 135 件		中 90 件	中 219 件	-186.7		
41 高校教育課	H25年12月		高 72 件	高 50 件	高 46 件	118.2	
42 義務教育課	H24年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「家や図書館で、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」の設問に「全くしない」と答えた児童生徒の割合	小 15.4 %	小 10 %	小 19.3 %	-72.2	全国調査の結果説明会や学力向上の集い等の機会を用いて、図書館利用への啓発を進めるとともに、授業改善プラン等の中にも、図書室や図書館の利用に関連する内容を取り入れ、読書離れを減少させる。
43	中 32.5 %		中 20 %	中 26.3 %	49.6		
44 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の授業以外で1日だいたい、どのくらい読書を読みますか」の設問に「全く、または、ほとんどしない」と答えた生徒の割合	高 50.5 %	高 30 %	高 %		

「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H24年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度の 現況値	H25年度の 目標値	H24年度の 現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
45 スポーツ健康課	H25年 3月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で授業以外で週3日以上運動・スポーツを実施している小学生（5・6年生）の割合	小 48.2 %	小 65 %	小 47 %	-7.1	学校生活において、運動習慣が身につくようなアプローチの仕方を工夫することで、運動の日常化に大きく結びついている。年間を通じて、毎日運動することができるように、学校全体での継続した取組を進め、体を動かす「時間」「空間」「仲間」の3間づくりの一層の充実を図る。また、健康・体力づくり一校一実践運動において、先進的な実践をしている学校紹介や運動プログラム例等の情報提供を行い、推進をしていく。
46 スポーツ健康課	H25年 3月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で小学生（5年生）のボール投げの平均値のピーク時（昭和56年）の値に対する割合	小 81.7 %	小 90 %	小 75.8 %	-71.1	体育科の授業や健康・体力づくり一校一実践運動のプログラムの中で、発達の段階に応じて、重さや形などが異なるボールを投げる・捕るといった様々な遊びや運動を意図的、継続的に行う取組を実施していく。また低学年から多様な遊びの経験ができるようにし、基本的な動きを身に付けて、全体的な体力向上にもつながるように進めていく。
47 スポーツ健康課	H25年 4月	・薬物乱用防止教室を実施している学校の割合	中 29.2 %	中 60 %	中 64.4 %	114.3	H24.12月に薬物乱用防止教育研修会を 日本学校保健会と共催開催。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校担当者が参加した。校種の発達段階や地域の実情に応じた取組と薬物乱用防止教室の開催を依頼した。 H25.3月に全学校に実施状況調査を行い、成果と課題を把握した。H25年度は、明らかになった課題に対して解決の手立てとなる研修会を実施予定。
48 スポーツ健康課			高 87.5 %	高 100 %	高 87.1 %	-3.2	
49 スポーツ健康課	H25年 3月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で児童生徒が朝食を摂取している割合	小 91 %	小 95 %	小 92.4 %	35.0	運動、食事、睡眠といった規則正しい生活習慣をもつ児童生徒は、体力数値が高い傾向にある。健康3原則（運動・朝食摂取・睡眠時間）の習慣化、朝食摂取を中心とした食生活に関する継続指導、保護者への啓発を積極的に推進していく。
50 スポーツ健康課			中 84 %	中 90 %	中 88 %	66.7	
51 スポーツ健康課			高 78.3 %	高 90 %	高 84.6 %	53.8	
52 スポーツ健康課	H25年 4月	・食に関する指導全体計画を作成している学校の割合	小 64.2 %		小 98.9 %	96.9	食育推進事業の推進地域中心として全県下で食育の充実が進められている。今後はさらに給食主任研修会、栄養教諭・栄養職員研修会等で全体計画の必要性や手引きの活用を指導し、高校については高校教育課と連携を図りながら100%作成をめざす。
53 スポーツ健康課			中 53.8 %	100 %	中 94.2 %	87.4	
54 スポーツ健康課			高 10.2 %		高 60.7 %	56.2	
55 新しい学校づくり推進室	H25年 2月	・一人ひとりの児童生徒の障害の状態や発達段階等に応じた学習指導を行うための「個別の指導計画」を作成している小中学校の割合	小 57.2 %	70 %	小 84 %	209.4	特別支援教育に係る校内支援体制の整備に取り組んだ結果、H19年度と比較すると「個別の指導計画」を作成した小中学校の割合が増えた。今後も研修会等を通じて周知を図ると共に、その活用方法についても周知徹底を図りたい。
56 新しい学校づくり推進室			中 39.8 %		中 80 %	133.1	
57 新しい学校づくり推進室	H25年 2月	・一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関が連携して適切な指導及び必要な指導を行うための「個別の教育支援計画」を作成している小中学校の割合	小 46.2 %	70 %	小 78.2 %	134.5	特別支援教育に係る校内支援体制の整備に取り組んだ結果、H19年度と比較すると「個別の教育支援計画」を作成した小中学校の割合が増えた。今後も研修会等を通じて周知を図ると共に、その活用方法についても周知徹底を図りたい。
58 新しい学校づくり推進室			中 35.7 %		中 77.8 %	122.7	
59 新しい学校づくり推進室	H25年 4月	・県立特別支援学校高等部の新卒生徒の就職割合	14.6 %	20 %	22 %	137.0	特別支援学校高等部生の進路指導など社会自立に向け取り組んだ結果、H19年度と比較すると一般就労した生徒の割合が増えた。 今後は、平成27年度の高等支援学校の開校に向け、職業的自立を目指したカリキュラムの編成や「障害者キャリアスキル検定（仮称）」の構築を行い、更なる就職割合の向上に努めたい。

「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H24年度 現況値の公表時期	指 標 の 概 要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H24年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
60 義務教育課	H25年 3月	・省エネ・省資源活動等に取り組んでいる学校の割合	小 87.8 %	100 %	小 95.7 %	64.8	目標値に近づきつつあるが、環境教育に関連したリーフレットの中で省エネや省資源に関する取組の重要性をアピールし、100%の学校で取組が進められるようにする。
61	中 84.4 %		中 95.4 %		70.5		
62 高校教育課	H25年 3月		高 75.9 %		高 96.4 %	85.1	
63 高校教育課	H25年 3月	・福祉の心を培い、福祉の実践力を高めるための福祉教育に取り組む高校の割合 小・中は100%達成済	高 92 %	高 100 %	高 100.0 %	100.0	前年度に引き続き目標値を達成できた。今後も各校の実態にあった福祉教育の実践に努めていきたい。
64 義務教育課	H25年 9月	・コンピュータや提示装置等を活用して指導する能力を持つ教員の割合	小 56.8 %	小 70 %	小 64.1 %	55.3	コンピュータや提示装置等の活用に関する研究会の開催を紹介し、ICT機器の活用を促し、コンピュータや提示装置等を活用して指導する能力を持つ教員の割合を増やしていきたい。  ICT関係の担当者会議、教科訪問等で活用を促したが、結果に結び付かなかった。次年度からはICT活用の事例を紹介しながら、各校の数値を全国や全県と比較させ、数値目標を設定し、各校で具体的取組を実行するよう促す。
65			中 56.3 %	中 70 %	中 62.5 %	45.3	
66 高校教育課			H25年 9月	高 64.3 %	高 80 %	高 65.3 %	
67 高校教育課	H25年 6月	・大学教員による授業を取り入れている高校の割合	高 69 %	高 80 %	高 87 %	163.6	30校中26校で実施。大学で主催する高校生向けの講座への参加が増加し、目標値が達成された。
68 義務教育課	H25年 3月	・教育活動に係る自己評価に対する学校関係者評価を実施・公表している学校の割合	小 39.9 %	100 %	小 87.5 %	79.2	合同指導主事会議や管理職研修会の機会を通して、多くの学校で、自己評価や学校関係者評価が実施・公表・報告されていることを説明するとともに、学校関係者評価評価の実施・公表は法的根拠に基づく行為であることを周知徹底する。  すべての学校で実施し、公表している。なお、ホームページでの公開は約半分にとどまっており、非公開校については今後の働きかけを強めていく。
69			中 43.8 %		中 86.2 %	75.4	
70 高校教育課			H25年 6月		高 71.7 %	高 100 %	
71 義務教育課	H25年 2月	・保育所や幼稚園との交流活動を年に3回以上行った小学校の割合	小 39 %	小 60 %	小 82.6 %	207.6	保幼小の連絡会議や教育課程説明会の機会を通して、相互連携の重要性や先行事例を紹介する。また、ホームページを使って、保幼の連携の事例や成果を紹介していく。
72 高校教育課	H25年 3月	・乳幼児とのふれ合い体験を実施している高校の割合	高 79.3 %	高 100 %	高 100 %	100.0	前年度未実施だった3校も、積極的に取組みを開始し、目標値を達成できた。今後も継続的に取り組んでいく。
73 社会教育課	H25年 3月	・様々な知識や技能を持つ地域住民が学校や家庭、地域に貢献できるための仕組みづくりに取り組んだ市町村の割合	0	100 %	100 %	100.0	県内小中学校や教育委員会を訪問し、指導助言を行うとともに、先進的な取り組みをホームページ上で紹介するなどして、さらに質的な向上をめざす。

「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H24年度 現況値の公表時期	指 標 の 概 要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H24年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
74 義務教育課	H25年 9月	・学校のホームページで情報提供を行っている学校の割合 高校は100%達成済	小 62.2 % 中 60.2 %	80 %	小 75.5 % 中 71.3 %	74.7 56.1	開かれた学校づくりという観点からだけでなく、ホームページによる情報提供は災害時における情報提供に役立つという有効性についても触れ、未開設の学校にホームページ開設を促していく。
76 生涯学習文化課	H25年 4月	・「やまなしまなびネットワークシステム」で提供している学習機会や人材等の学習情報へのアクセス件数	836,370 件	1,000,000 件	387,853 件	-274.1	平成14年度のシステム稼働から基本的構造を変更していないため、H25年度はより県民に利用しやすい内容に改修して、アクセス向上に努めていく。
77 生涯学習文化課	H25年 4月	・県、市町村、大学、民間団体等が連携し、多様な学習機会を提供する「キャンパスネットやまなし」に入学した人の数（累計）	3,098 人	5,000 人	4,992 人	99.6	制度創設から11年経過しており、新規入学者の掘り起こしを図るため、市町村担当者への周知を図りつつ、より入学者のメリットが広がる仕組みとなるよう見直しを行い、入学者増につなげていきたい。
78 生涯学習文化課	H25年 3月	・「キャンパスネットやまなし」において所定の単位を取得し、奨励賞を交付された学習者の数（累計）	1,154 人	2,300 人	2,612 人	127.2	昨年度は351名の奨励賞受賞者があり、一昨年と比べると38P増加した。さらに、3,000単位取得者が2名現出している。 今後も、高単位取得者を増やすためのPRを続けていく。
79 社会教育課	H25年 3月	・様々な知識や技能を持つ地域住民が学校や家庭、地域に貢献できるための仕組みづくりに取り組んだ市町村の割合	0	100 %	100 %	100.0	県内小中学校や教育委員会を訪問し、指導助言を行うとともに、先進的な取り組みをホームページ上で紹介するなどして、さらに質的な向上をめざす。
80 スポーツ健康課	H25年 3月	・いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブを設置している県内市町村の割合	53.6 %	100 %	82.5 %	62.3	24年度中は、ほとんどのクラブで取組の充実等みられたり、総合型スポーツクラブへの関心の高まりを感じたりしたが、新たなクラブの出現はなかった。1クラブが、準備中から設立総会に進んだ。
81 スポーツ健康課	H24年度調査なし	・週1回以上スポーツを実施している成人の割合	32.4 %	50 %	%		平成25年度調査予定
82 スポーツ健康課	H24年10月	・国民体育大会における個人、団体の上位8位以内の入賞数	83 人・団体	100 人・団体	72 人・団体	-64.7	H24年度の国体成績は芳しくなく、目標値に達することが出来なかった。
83 スポーツ健康課	H24年 8月	・選手、指導者がアンチ・ドーピングへの意識啓発のための講習会に参加している県内競技団体の割合	70 %	100 %	100 %	100.0	国体参加40競技団体がすべて講習会に参加し講習を受けた。
84 スポーツ健康課	H25年 3月	・トップレベルの競技者の養成・確保のための一貫指導体制を確立している競技団体の割合	55 %	100 %	78 %	51.1	各競技団体に、一貫指導体制を確立するための指導マニュアル作成を促し23年度より若干数値が上がった。

「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H24年度 現況値の公表時期	指 標 の 概 要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H24年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
85 生涯学習文化課	H25年 5月	・県民文化ホールで開催した主催事業への入場者数	17,951 人	20,000 人	29,277 人	552.8	質の高い舞台芸術公演を数多く開催したことにより、多くの入場者を得ることができた。 今後も引き続き多くの県民に本物の舞台芸術等にふれることができる機会を確保していく。
86 義務教育課	H25年 4月	・県立博物館と連携して教育活動を行っている学校の割合	小 40 %	50 %	小 49.2 %	92.0	校長研修会や教頭研修会の折に、資料を配布したり、博学連携の重要性や必要性について説明したりする。  30校中実施しているのは7校である。交通の利便性等の要因により、連携校が固定化されつつある。講師の派遣や教材の借用等による連携を更に進めていく。
87	中 34 %		中 48.8 %		92.5		
88 高校教育課	H25年 6月		高 31 %		高 23 %	-42.1	
89 生涯学習文化課	H25年 4月	・県民の文化芸術活動の発表及びその鑑賞の場である県民文化祭への参加者数	218,973 人	222,000 人	241,796 人	754.0	H25の県芸術文化祭は、国民文化祭の事業を優先するため縮小して開催することとしているが、H26以降については、国民文化祭の成果を継承できるよう内容を見直して開催する予定である。
90 学術文化財課	H25年 3月	・県内の国・県指定文化財の件数	660 件	690 件	670 件	33.3	18件の新規指定があり、指定解除を除けば、60.0%の進捗率である。しかし、同時期に8件の指定解除があったため、進捗率は低くなっている。 今後も新規指定に向けた指定候補物件の掘り起こしを行い、指定文化財の増加に努め、文化財の適切な保存・活用を行っていく。